

【登場人物】

石川 朱里（いしかわ あかり）
石川 和史（いしかわ かずふみ）

【シーン1】 和史の車の中

暗転から明転。

和史が運転している。（背もたれのある椅子に座っている、ハンドルを握るポーズ）
朱里は助手席に座っている。（背もたれのある椅子に座っている）

朱里 少なくともあたしは和史さんの第一印象悪くなかったよ。

和史 職場ではピッキングのおばちゃんに、もっと愛想良くしてよって言われるけどな。

朱里 単純にフォークリフト運転してる姿がカッコ良かったのかなあ。あと作業着に萌え
たよね。りりしく見えたし。

和史 こっちは写真撮られる側だから緊張してたんよ。

朱里 真剣ないい表情していた。人の第一印象って、早くて6秒で決まっちゃうんだって。
しかも半分以上が見た目で決まってしまう。視覚が55%で、聴覚が38%だったか
な。何回も言うけど、あたしが和史さんに一目惚れ。それでインタビューしたら鼻濁
音がきれいで、声にも好感を持ったのですよ。

和史 ああ、そう。

朱里 何、柄にもなく照れちゃって。

和史 これでも喜んでんだよ。

朱里 わかっている。

和史 ギイオンで声かけてくれてありがとな。

朱里 （大袈裟に驚いて）ね！ あんな偶然あるんだね。そりゃあ、声掛けるさ、お近づき
になる絶好のチャンスだったんだもの。

和史 びっくりしたよなー。

朱里 その日の夜だもんね。

和史 でも、あれ以来、ギイオン行ってない。

朱里 今度行こうよ。

和史 まあ、でも、いずれはどっかで、また会ってたのかもな。

朱里 運命ですか。

和史 言わせんなよ。あのバーテンの男子、薄野くんだったけ。

朱里 郁生くんね。

和史 そうだ、薄野郁生くんだった。個人的だった。俺に取材するより100倍面白かっただろ？
朱里 比べられないよ、そんなの。和史さんは言葉少なで文章にするの苦労したなー。逆に
郁生くんはしゃべりすぎで文字数抑えるの大変だった。でも、どっちも原稿書くの楽
しかったよ。あ、そうだ、ギイオンでケータイ番号訊いてくれて嬉しかった。

和史 速攻で電話して悪かったな。

朱里 ギイオン効果ってあるんだけど、

和史 何、それ。

朱里 何回も会うと人は仲良くなるでしょう。それがギイオン効果って言うんだよ。

和史 ギイオンで会ったからのギイオン効果じゃなくて？

朱里 よくできた偶然だけだね。それで、共通点が見つかることをラポールって言うの。

和史 へー。まあ、だけど俺たちにはギイオン効果もラポールも必要なかったんじゃない？

朱里 そうだねー。(と言って、運転している和史の肩にもたれ掛かる) 真面目な話、今度

こそギイオン行こうよ。郁生くん、和史さんに会いたがつてるよ。

和史 正直、郁生くんって親しげに呼ぶところに嫉妬。

朱里 どうした、また。嫉妬なんて柄でもない。弱気だねえ。

和史 そう言われると悔しいけど。

朱里 あたしに恋しちゃってる？

和史 うるせーよ。

朱里 素直じゃないんだから。

和史 年上をからかうんじゃない？

朱里 あ、この曲、最近流行ってるよね。

和史 俺たちのことみたいだ。

朱里 そうだね。ねえ、郁生くんとは何でもないから。だからギイオン行こう。

和史 そうだな、行くよ。でも、俺だけを見る。わかった？

暗転。

【シーン2】

明転。

下手側の袖に和史。

上手側の袖に朱里。

舞台上には何もなくなっている。

しばらくして和史がダンスしながら現れる。

底抜けに明るい音楽のワンフレーズが

ループして流れる。

45秒後、音楽が突然鳴り止み、和史、静止して短歌を読む。

和史 恋落ちた

流行の曲も

もう忘れ

あの頃の君
にも興味なし

再び、底抜けに明るい音楽、流れる。

和史、下手側の袖に引っ込む。

間を置いて朱里がストレッチをしながら現れる。

主に上半身のストレッチをする朱里。

45秒後、音楽が突然鳴り止み、朱里、静止して短歌を読む。

朱里 郁生くん

みんなで飲む酒

おいしくて

彼への詫びも

言わずに泥酔

再び、底抜けに明るい音楽、流れる。

朱里、上手側の袖に引っ込む。

しばらくして和史がダンスをしながら現れる。

45秒後、音楽が突然鳴り止み、和史、静止して短歌を読む。

和史 一人酒

朱里が誰と

飲むとも

まったく知らない

嘘とは知りつつ

再び、底抜けに明るい音楽、流れる。

和史、下手側の袖に引っ込む。

間を置いて朱里が包丁を手にして現れる。

45秒後、音楽が突然鳴り止み、朱里、静止して短歌を読む。

朱里 その寝首

突きつけても

気づかない

間抜けなお前

もう二度死んだ

再び、底抜けに明るい音楽、流れる。

朱里、上手側の袖に引っ込む。

誰もいない舞台に再び、底抜けに明るい音楽、流れる。

15 秒後、ゆっくり暗転。

それに合わせて音楽もフェードアウト。

【シーン3】 和史の車の中

明転。

和史が運転席にいる。(背もたれのある椅子に座っている。運転はしていない)

朱里は助手席に座っている。(背もたれのある椅子に座っている)

車は産婦人科の駐車場に停まっている。

和史 誰のせいでもないから自分を責めるな。

朱里 ……。(悲しそうに黙っている)

和史 俺は朱里と結婚できることだけで満足。

朱里 ……。(力なく笑顔)

和史 泣いてもいいんだ。

朱里 ……。(首を横に振りながら、顔をしかめる)

和史 ……。(朱里を抱き寄せる)

しばらく黙って抱き合う二人。

間があつてから、思いついたように、和史、問いかける。

和史 ジョジョ、何部が好き？

朱里 え？

和史 だからジョジョは第何部が好きかって訊いてんの。

朱里 なんで、今？

和史 いいから。

朱里 ううんと、5 部かな。

和史 理由は？

朱里 そうだな、プロシユート兄いが好きなの。覚悟がすごい。

和史 『ブツ殺す』と心の中で思ったならッ！ その時ステに行動は終わっているんだッ！」
っていうセリフ、いいよな。

朱里 和史さんは？

和史 知ってるだろ？

朱里 一応、訊いてみた。

和史 6 部。ダントツだね。

朱里 あたしは悲しくて、読む度に辛くなる。

和史 それがいいんだよ。

朱里 バッドエンド好きだよね。

和史 蛙が雨のように降ってくるシーンあるじゃん？ 蛙嫌いの俺からすると、サイコーに気持ち悪い。でも好き。

朱里 そう思わせる、荒木先生、すごい。

和史 蛙を食べたら鶏肉みたいでおいしかったっていうような感覚。

朱里 蛙、淡白でおいしいよね。

和史 高校の時、ベトナムで国際試合があって、夜、レストランで食べさせられたなー。肉だけほぐしてあったから、蛙だってわからなくてさ、鶏肉だって先輩に勧められて食べた。すげーうまかったよ。それで食べ終わった後に「美味だったっす」って言ったら、先輩に「実は蛙だぜ」って焼いた蛙の足を目の前に出されて、嘔吐して気絶した。気絶？ それ、作り話でしょー。百歩譲って、吐くのはわかるけど、気絶はしないよ。

和史 ホントだって。テールの上に吐いて、そこに顔を埋めて記憶失くした。

朱里 ジミヘンかよ。

朱里、突然に笑い始める。

段々と狂っていくようにけたたましく笑う。

和史も釣られて笑おうとするがうまく笑えない。

朱里 和史さんってホント愉快な人。(まだ笑いが治まらない)

和史 なんでジミヘンなんだ？

朱里 あ、郁生くんが言ってたの。ジミヘンってクスリのやりすぎでゲロ吐いて、そこに顔を埋めて窒息死したんだって。本当かどうか知らないけど。

朱里、再び、笑い出す。

しかし、それは先ほどよりも中途半端なもので、自然と嗚咽に変わる。

和史 ごめんな、泣かせてしまった。

朱里 (嗚咽を堪えながら) ううん、和史さんのせいじゃないの。あたしのせい。

和史 だから、誰にも責任はないって言ってるじゃん。

朱里 (鼻水を拭きながら) 子どもできたら、柔道やらせたかったでしょう？

和史 俺は朱里と暮らせるだけで幸せだよ。我々ふたりで家族だし、いい家庭を作れるさ。

朱里 ごめんなさい。

和史 謝るな、今度謝ったら怒るよ。

朱里 ごめんなさい。

和史 ほら、また謝ってる。

朱里 あ、そんなつもりじゃなかったの。

和史 泣いたらきれいな顔が台無しだ。涙を拭きな。
朱里 ありがとう。

和史 朱里、きれいだよ。一生涯きれいでいて。それだけで俺は嬉しい。

朱里 和史さん。

和史 朱里。

長く、見つめあう二人。

暗転。

【シーン4】

明転。

下手側の袖に和史。

上手側の袖に朱里。

しばらくして和史が、鼻歌を歌いながら現れる。

三木道三の『Lifetime Respect』の冒頭。

45秒後、鼻歌を突然歌うのを止め、和史、静止して短歌を読む。

和史 愛息も

いなくて良けり

今なりて

子どもできない

悲劇に乾杯

和史、下手側の袖に引っ込む。

間を置いて朱里も鼻歌を歌いながら現れる。

モーニング娘。の『LOVE マシン』の冒頭。

45秒後、鼻歌を突然歌うのを止め、朱里、静止して短歌を読む。

朱里 知っている

子どもがいなくて

良かったと

あなたの心

海に沈めたい

朱里、上手側の袖に引っ込む。

しばらくして和史が、鼻歌を歌いながら現れる。

三木道三の『Lifetime Respect』のサビ。

45 秒後、鼻歌を突然歌うのを止め、和史、静止して短歌を読む。

和史 いい加減

終わりでいいよな

気がしてる

俺たち二人

殺しあう前に

和史、下手側の袖に引っ込む。

間を置いて朱里も、鼻歌を歌いながら現れる。

モーニング娘。の『LOVE マシーン』のサビ。

45 秒後、鼻歌を突然歌うのを止め、朱里、静止して短歌を読む。

朱里 悲しみの

ヒロイン演じる

こと疲れた

もうどうだって

いいの殺して

朱里、上手側の袖に引っ込む。

無人の舞台にミラーボールがキラキラ回る。

しばらくして暗転。

【シーン5】 和史の車の中

暗転から明転。

和史が運転している。(背もたれのある椅子に座っている、ハンドルを握るポーズ)

朱里は助手席に座っている。(背もたれのある椅子に座っている)

朱里 こんなに好きなのに、いつか好きじゃなくなるんだってね。

和史 いいや、終わらないことだってあるよ。

朱里 そうだとして、あたしたちはそれにふさわしい関係なのかな。

和史 信じる勇気を持って、ついて来な。

朱里 うん。

和史 結婚するか？

朱里 和史さん、信号、赤だった、今。

和史 マジで？

朱里 はい、マジで結婚します。

和史 え？

朱里 私を幸せにしてください。

和史、朱里を何度もチラ見する。

次第に高揚し、片手で朱里の髪をくしゃくしゃにする。

和史 約束するよ。

朱里、立ち上がる。

暗転。

朱里、暗闇の中、呟く。

朱里 嘘つき。

(了)